

## ロータリーの存在価値

2680 地区 PDG 田中毅

世界中のマスコミが、武漢コロナウイルスに関する数々の情報を提供しています。

過酷な活動を強いられている医師団に対して、イタリアでは病院の前で激励の拍手を贈ったり、ベルギーでは総菜を提供している光景が報道されました。東京でもサラダの業者が医師にサラダを提供するシーンが放映されています。

それに反して、世界中の数多くの活動報告の中に、ロータリーの活動は全く見当たりません。ロータリーのエンブレムも全く現れません。

武漢コロナウイルスの蔓延によって、都市部では3月初旬から例会が中止され現在に至っています。RIの国際大会も地区の諸会合も中止になって、ロータリー活動は完全に停止しています。

ロータリーの活動停止によって、どのような影響を与えたのでしょうか。

私の個人的見解として、ロータリーの活動停止によって、国際奉仕の恩恵を受ける世界の人たちも、社会奉仕の恩恵を受ける地域社会の人たちも何の影響も与えていないような気がします。更に職業奉仕の恩恵を受けるロータリアン自身にも何の影響も与えないのなら、ロータリーの存在価値は無いということになります。

RIやロータリークラブやロータリアンは一体何をしているのでしょうか。

すべての奉仕活動を停止して、自分の企業や身を守るだけのために、クラブ定款・第7条・第1節(d)(1)「全地域社会にわたる流行病もしくは災害が発生した場合、例会をとりやめることができる」に基づいて、自宅や会社で息を殺しているだけなのでしょうか。

RIは武漢コロナウイルス対策の活動について何の指針も出しません。2019年の規約改正によって、大幅な自治権を持ったクラブも、完全に委縮して、すべての活動を停止したまま、2ヶ月が経過しました。

RIが何の活動指針を示さないのなら、それに乗じて、この際クラブの自治権を思い切って拡大したクラブ運営をしたらどうでしょうか。

- ① 医学的見地から、ワクチンや治療薬の開発によって、武漢コロナウイルスが沈静化するのには、最短で1年半から2年掛かると想定されます。その間のクラブ運営を真剣に考える必要があります。
- ② 一堂に会する会議は例会や地区の諸会合は危険です。この際、思い切って、SKYPEやZOOMによる会合に切り替えます。
- ③ ロータリー財団や米山奨学金の寄付は一時停止して、クラブ、出来れば地区や日本国全体の基金を創設します。クラブから始めて、分区、地区、ゾーン、全国と広げていきましょう。
- ④ この基金の用途は、不足している医療物資の購入、地域社会の武漢コロナウイルス対策、武漢コロナウイルスによって被害を受けた会員への融資、日本人を含む独自の奨学金制度に活用します。
- ⑤ 職業奉仕の観点から、会員同士の事業を守る活動も大切です。政府もやっとサプライ・チェーンを国内で完成する方針を立てました。その中心になるのがロータリアンの大半を占める中小・零細企業です。

ロータリーの奉仕理念を実践して、ロータリーの存在価値を高めるためには、ロータリーを企業化しようとするRIの方針に従属するのではなく、日本人の感性に従った、独自の思い切った改革が必要です。

今が、絶好の機会です。あなたのクラブから実践してください。